

鹿児島における落葉果樹の栄養診断時期

立田芳伸・佐野憲二・土持武男 (鹿児島県果樹試験場)

Yoshinobu TATSUDA, Kenji SANO and Takeo TSUCHIMOCCHI : The Time of Diagnosis of Nutrient Condition of Several Cultivars of Deciduous Fruit Tree in Kagoshima Prefecture

鹿児島における落葉果樹の栄養診断時期を把握するため、1984年～'86年にかけて葉中成分の分析により診断時期を検討した。

1. 材料及び方法

鹿児島県果樹試験場(垂水市)内のスモモ(1986年当時10年生大石早生, サンタローザ), 及び同北薩支場(東郷町)内のモモ(5年生日秀早生, 布目早生), ブドウ(16年生巨峰, キャンベルアーリー), カキ(7年生西村早生)についてモモ, スモモは5月～8月, ブドウ, カキは7月～10月に葉分析を行い葉中成分の推移をみた。

採葉は基準木を2～3樹選定し, モモは中～長果枝の中位葉を計60枚, スモモは花束状短果枝より計90枚, ブドウは房先5～6枚目を計30枚, カキは不着果枝の中位葉を計30枚採葉し分析に供した。

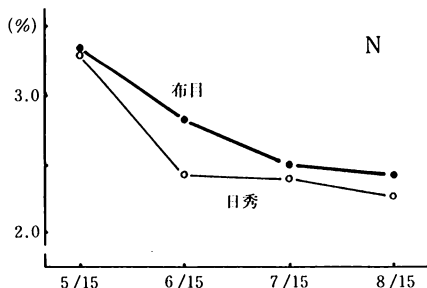
なお, モモ, スモモ, カキは葉柄, 葉身を含めて分析し, ブドウは葉柄を除去後葉身を分析した。

2. 結果及び考察

1) モモの葉中成分含有率の時期別変化は日秀, 布目早生ともN, Kは調査期間中減少傾向で, 特に5月～6月の減少が大きく, Nは7月中旬以降, Kは6月中旬～7月中旬の変動が小さかった。また, Nの品種間差は6月中旬ごろが大きく, 7月以降は小さくなった。Pは7月中旬～8月に増加しCa, Mgは6月中旬に大きく増加したが, 以後の変動は小さくなった。品種間でみると, 日秀早生は布目早生よりN, Pが低い傾向にあった。

2) スモモの葉中成分含有率の動きをみると, Nはモモの動きと類似しており7月中旬まで減少し, その後の変動は小さくなった。Pはほぼ横ばい状態であり, Kはサンタローザで増減の波が大きかったが, 大石早生は6月中旬以降変動は小さく, Caはいずれも増加傾向を示し, Mgは6月中旬～7月中旬に変動が小さかった。

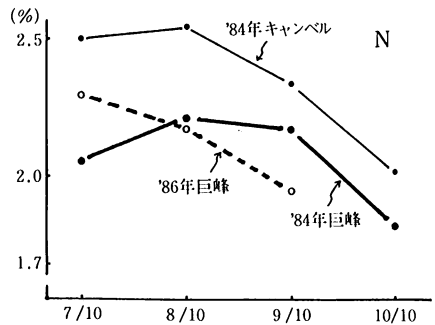
3) ブドウの葉中成分含有率の動きを1984年でみると,



第1図 モモの時期別葉中成分 ('84～'86年平均, 乾物中%)

Nは8月上旬まで増加し, 9月上旬まではほぼ一定で, その後急減した。Pは9月上旬までの変動は小さいが以後増加し, Kは9月上旬を境に増加傾向に転じた。Caは増加傾向であるが, 8月上旬～9月上旬の変動が小さく, Mgは漸減傾向であるが8月上旬以降の変動は極めて小さかった。

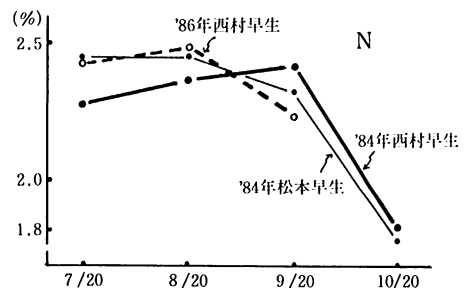
1986年はNが減少傾向を示したが, Pは期間中ほぼ一定であり, Kは8月上旬～9月上旬の変動が小さかった。また, 巨峰はキャンベルアーリーに比べNは低く, Ca, Mgは高かった。



第2図 ブドウの時期別葉中成分 (乾物中%)

4) カキの葉中成分含有率の動きをみると, Nはブドウと似ており, 1984年の結果では9月下旬まで漸増し, 以後急減した。P, Kの変動は比較的少なくCa, Mgは9月下旬を境に減少傾向に転じた。

1986年のN, Kは8月下旬を境に減少し, Pはほぼ一定Ca, Mgは8月下旬～9月下旬の変動が小さかった。



第3図 カキの時期別葉中成分 (乾物中%)

以上, 葉分析による栄養診断時期として, 葉中成分含有率の変動の少ない時期を目安にするとモモ, スモモは7月中旬ごろ, ブドウは8月上～中旬, カキは8月中～下旬が適期と思われる。